

## 揖斐川町学校教育の在り方審議会

### 子育て支援センター保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年4月30日（木） <開会>11時15分 <閉会>12時00分

2 場 所 揖斐川町子育て支援センター

#### 3 出席者

審議会委員 徳永 恵理奈

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

保護者・家族 12人

保 育 士 3人

#### 4 次 第

##### (1) あいさつ

- ・ 教育長より、開会の挨拶と「揖斐川町における学校教育の現状と課題」についての説明を行う。

##### (2) 意見交流

参加者：これから小学校はどのようになるのか。学校数が減ったり統合したりするのか。

教育長：今はどの学校も各学年単学級編制となっており、1クラスあたり17人ほどの児童数である。この規模感についての保護者の意見をみると、学校を1校に統合した方がクラス替えができるためよいのではないかと、ただしその場合でも一人一人をしっかりときめ細かくみてもらえる環境をつくってほしいという意見が多くを占めている。本日参加している保護者の皆様はどのようなお考えか。

参加者：谷汲地区は、幼稚園から中学校まで同じクラスメイトで変わらないため、安心感があるなどのよい面もあるが、高校に進学した場面等で新しい人間関係を構築する力が身に付けづらいと思うため心配している。

参加者：私の子どもは小島小学校に通っており、比較的町内でもクラスの人数は多い方ではあるが、やはりクラス替えがないために雰囲気が変わらず、意見をはっきり主張できる子どもに全体が流されたり、うまくなじめない場合に登校しづらくなったりということが起きてしまうことがある。クラス替えがあれば学年が変わるタイミングで雰囲気が変わると思うため、学年にクラス替えができる程度の人数がいるとよいと考える。

教育長：クラス替えには友達の輪が広がるという面と、仮にクラスの中で少し肩身が狭い思いをしていたとしても、クラス替えによって空気感が変わったり、異なる雰囲気がある隣のクラスという環境を確保することができるという面がある。

参加者：今は学年が変わっても担任の先生が替わる程度の変化であり、その先生とも合わなければ一年間学校に通いづらくなってしまうため、やはり学年ごとにクラス替えがあるとありがたい。

参加者：揖斐地区に住んでいる。児童数が少ないことは仕方がないが、子どもたちの多様性に合わせてきめ細かく対応してもらえる点はよいことだと思う。一方、子どもが大きくなった時に、人数が少ないとどうしても本人がやりたいことや部活動等をするのができないという問題もあるのではないかと。学校を統合する場合、通学距離が長くなる

ため、通学手段や安全性が確保されるのであれば統合には賛成である。

教育長：子どもたちの多様性という点で、それぞれの子どもたちに合わせてきめ細かく対応するためには、多くの教員の確保が必要になる。裏を返せば、子どもたちの人数が少なければ、少ない教員でもきめ細かく対応することができる。そこで、1クラスあたりの人数は少なく、そのクラスが複数あるという環境が一番よいのではないかと考えている。今の揖斐川町の1クラスあたりの人数の平均は17人程度であり、この程度が一番適当な人数であるため、これを維持できるとよいと感じている。なお、今年度は小島小学校に34人で編制しているクラスがあるが、そこには担任を2人配置しており、今後も学級編制において必要であれば町費で先生の人数を補っていくことを考えている。

通学については、クマの出没も発生していることや、長時間歩かなければいけない状況があることなど、必要に応じて問題状況を解消しなければいけないと感じている。今も小学校の設置基準である4kmを超える通学距離となる児童についてはバス通学としているが、今後学校統合をする場合はスクールバスの運行が必要だという意見はこれまでも圧倒的に多く出されていた。また、下校時には分団での下校を行っているが、その分団が組めない地域も出てきている。小島小学校区は比較的人数が多いが、どうか。

参加者：小島小学校区でも人数の少ない地域はあり、4年生で分団長になる場合もある。低学年の児童を連れていくことになるため心配している。

教育長：今は徒歩通学をしている児童が大半だが、もし学校を統合する場合はスクールバスを運行し、安全に登下校できるような環境をつくりたいと考えている。

部活動に関しては、土日については地域クラブに移行しており、3つの中学校の児童が合同で行っている。各学校での部活動も行っているが、学校単位では実施できる活動に限りがあるため、活動の場の担保と幅の拡張を図る目的で2年前から取り組んでいる。

参加者：私も教員で、今は育児休暇中である。教員不足と言われているが、今は点在する各学校それぞれに教員を配置しているため、学校を統合すれば各学校にいる教員も集まることになり、統合後の学校では教員数が確保できて手厚い対応がしやすくなるのではないかと考えている。

教育長：揖斐川町はかろうじて教員を確保できているが、他の市町村では本来必要な教員が不足している状況が続いているところもある。特に規模の小さい中学校では教科の免許をもった先生をすべて確保することができないということが起きてしまうため、そうした場合にはその教科の免許をもつ教員がいくつかの学校を兼務することによって対応することが必要になる。教員不足という視点から、学校統合をすることによって必要な教員を確保することができるためよいという意見はあり得ると考える。

参加者：清水地区に住んでいる。先日、乳幼児に関する授業への協力で小学校に行く機会があり、複式学級の様子を見ることができた。その中で、上の学年の子どもが下の学年の子どもを手伝う姿はよいと感じたが、勉強面での心配は確かにあるのではないかと。また、今はそれぞれの学校でその地域のことを学んでいるが、学校を統合した場合、地域全体のことを学べるようになるというよい点と、学びが広く浅くなったり地域の人のつながりが薄れたりするという心配な点があると考えている。

教育長：複式学級については、二つの異なる学年の子どもたちが関わり合えるというよさもある

るが、教員にとっては1時間の授業の中で2学年分の学習内容をそれぞれに教える「渡り」ということをしなければならず、非常に難しい。今は追加で教員を配置してそれぞれが勉強できるようにしているが、すべての授業でそのようにできているわけではないため、その点で学力の保障ができていないかという心配はある。

地域とのつながりについては、各地域に様々な祭りや太鼓踊りがあり、それらを子どもたちと地域の皆さんと一緒にやるなどしているが、其方の地域ではどうか。

参加者：私は、今は揖斐地区に住んでいるが、出身は北方地区である。北方地区では、私が学校に通っている頃の子祭りというものがあり、その時期になると休み時間に神社に参拝して鳥の卵に見立てたおにぎりをもらっていて、楽しかった記憶がある。だが、今はそれがあまり行えていないという話も聞いているし、学校が統合することでそれぞれの行事の会場との距離も遠くなるため、そうした当時の楽しかった思い出がなくなるという点で寂しさを感じる部分はある。

参加者：脛永地区に住んでいるが、養基小学校がなくなるといううわさを聞いている。そうになると通学が大変になると思っているが、どのような状況か。

教育長：養基小学校は池田町と揖斐川町で学校を設置している組合立小学校であり、池田町が令和13年に学校を統合するという報道が出されたため、脛永地区に住んでいる方は心配されていると思われる。ただ、当然子どもたちが学習できる環境は保障する必要があるため、お互いの足並みが揃うよう現在池田町と協議をしている段階である。先日の地区集会では養基小学校を卒業すると子どもたちが2つに別れて各町の中学校にそれぞれ進学することになるため、小学校からそれぞれの町の学校に通う方がよいのではないかという意見も出されていたが、その点についてはどう思われるか。

参加者：私もそう思っている。

教育長：このことに関連して、大和地区と北方地区も同様な環境にある。やまと・きたがた幼稚園の卒園後の話を委員からお聞きしたい。

委員：やまと・きたがた幼稚園はもともとやまと保育園ときたがた保育園が統合してできた園だが、卒園すると小学校で大和小学校と北方小学校に別れ、そして小学校を卒業するといずれも北和中学校に入学するため、再び一緒に学校に通うことになる。そのため、子どもたちは小学校入学時に気の合う友達と別れることになってしまう場合があり、それでくじけてしまう子どももいるので、小学校も統合して一緒に入学できるようにしてほしいという意見が多くあった。

また、幼稚園としても、地域の公民館祭りに参加する際に大和公民館に行く子どもと北方公民館に行く子どもがいるため、分かれて向かう必要があったり練習もそれぞれしなければいけなかったりするということはある。

参加者：養基小学校は組合立のため、揖斐川町に警報が出ていても池田町に警報が出ていない場合、同じ脛永地区に住んでいても養基小学校には行かなければいけないが揖斐川中学校は休校になっているということがあると聞いた。組合立でなくなれば解消される問題かと思うが、このあたりもまだ協議する期間ということか。

教育長：厳密には組合立の学校には組合の教育委員会があるため、そこで休校の判断は行っているが、現在は警報が出されている方に合わせて判断することになっている。池田町にのみ警報が出ることも揖斐川町にのみ警報が出ることもあるが、どちらの場合でも各町の小学校が休校になる場合には養基小学校も合わせて休校するという対応をしている。

また、給食についても、池田町については養基地区にある大野町と設置している給食センターが用意しているが、養基小学校の給食はそこではなく揖斐川町で用意している。このあたりの仕組みも是正する必要があると考えている。

参加者：地域に学校が1校ある状態には非常によい面もあると思う。ただし、地域のつながりという点では、その学校がなくなったとしても地域とのつながりがなくならないよう教育委員会や町が努力すべき内容であり、その点でもって学校統合を議論する話でもないように感じている。

参加者：子どもたちの人数は減ってきているが、他者との交流やコミュニケーション能力の醸成という点で、やはり1クラスの人数は10人未満となるよりも10人以上となっていた方がよいと思う。

### (3) お礼

- ・ 教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会